

令和8年度

エコチル調査企画評価委員会・企画評価ワーキンググループスケジュール（案）

日程	会議名	基本計画	年次評価	広報戦略
6月頃	第1回企画評価ワーキンググループ（以下、WG）	基本計画改定 について検討		令和8年度広報活動の進捗報告 令和9年度広報戦略の検討
7月頃	第1回企画評価サブWG			
9月頃	第1回企画評価委員会		実施状況報告	令和8年度広報活動の進捗報告
10月頃	第2回企画評価サブWG			
1月頃	第2回企画評価WG		令和8年度年次評価書案 作成※1 令和9年度年次評価方法 検討	令和9年度広報戦略の検討
2月頃	第3回企画評価サブWG			
3月頃	第2回企画評価委員会		令和8年度年次評価書案 確定※2 令和9年度年次評価方法 確定	令和8年度広報活動の報告 令和9年度広報戦略の報告

※1 「令和8年度年次評価に関する実施要領」に沿って、各実施機関等による自己点検報告、実地調査によるルール遵守状況の確認、業務全般の取組状況や成果に対する評価から、ユニットセンターの総合評価書を審議し、評価書案を作成。

※2 企画評価委員会が評価書案を審議し、評価書案を確定。

ユニットセンター総合評価基準（案）見直しポイント

【ご意見】

- ・ 毎年重点項目を設定し、重点項目を達成したUCが評価される仕組みとしてはどうか。

【対応案】

- ・ 既存の評価基準の項目から、毎年重点項目を設定し、重点項目の○を2つ分として総合評価に加える。

→次ページの注記、「8」参照

→「資料3-3 令和8年度年次評価に関する実施要領」p2上部の加筆案に反映

【ご意見】

- ・ CCが評価に加わる仕組みを再検討してはどうか（効果的な仕組みへ）。

【対応案】

- ・ 重点項目選定に際し、調査全体の状況を踏まえた上でCCからの意見をもとに、委員会で決定する。

→次ページの「回収率の改善」を重点項目として設定

【ご意見】

- ・ 一般の方への広報活動に限定した評価もされるべきではないか。

【対応案】

- ・ 「令和8年度年次評価に関する実施要領」の評価の視点に加えてはどうか。

→「資料3-3 令和8年度年次評価に関する実施要領」p3の【※4】、p9の加筆案に反映

ユニットセンターの総合評価基準（案）

総合 評価

- 卓越して優秀：○が7個～10個ある
 優秀：○が4個～6個ある
 良好：○が0個～3個ある
 不十分：良好の評価だが、ルール違反がある

エコチル調査ルールの遵守及び管理状況
 ・個人情報の管理状況のルール違反
 ・成果発表ルールの違反（軽微な違反を除く¹⁾）
 のいずれかで注意喚起後も同じルール違反を繰り返した場合、評価が下がる。

評価項目		評価基準（○をつける視点） ²⁾	判断材料	
質問票 ³⁾ の 回収状況	回収率の状況	<ul style="list-style-type: none"> ■ 回収率がUC⁴⁾全体の平均以上の場合 ■ 回収率を標準偏差（SD）から評価し、2年継続して回収率が全ユニットセンターの平均プラス0.5SD以上の場合 	○	
	回収率の維持	<ul style="list-style-type: none"> ■ 直近の回収率の減少が出生後6ヶ月より●%未満⁵⁾ 	○	
	回収率の改善	<ul style="list-style-type: none"> ● 質問票の回収率が前年度より改善されている 	◎ ⁸⁾	
				自己点検結果、 質問票回収状況 (コアセンター資料)
業務全般の取組状況 (PDCAの取組)		<ul style="list-style-type: none"> ● 「参加者（子どもを含む）の調査参加へのモチベーション維持」⁶⁾ 	○	UCによる他薦
		<ul style="list-style-type: none"> ● 「質問票回収率の維持・向上」 	○	UCによる他薦
		<ul style="list-style-type: none"> ● 「成果の社会還元」 	○	UCによる他薦
エコチル調査の成果		<ul style="list-style-type: none"> ■ エコチル調査の研究成果や活動に対し学会等から表彰・褒章がある 	○	自己点検結果
		<ul style="list-style-type: none"> ● 特に優れた学術論文や成果発表がある (論文数や論文の質⁷⁾等を総合的に評価) 	○	UCによる他薦

1) エコチル調査の成果を発表する上で重大な問題となることが想定される場合を対象とする。届出・報告の遅延などは軽微な違反と見なし、注意喚起を実施することとし、総合評価における減点の対象とはしない。なお、注意喚起への対応が不十分である場合などはこの限りではない。

2) ● = 重点項目の対象となる評価基準 ■ = 重点項目の非対象となる評価基準

3) 年齢別質問票と学年別質問票を評価対象とする。

4) UC: ユニットセンター 5) エコチル調査全体の回収率の減少率を基準とし、年度により可変。令和7年度年次評価では29.3%未満。

6) 13歳以降の継続のための取組を含む（継続率を含む）。7) インパクトファクターや社会的意義及び、学会等における表彰などを参考にする。

8) 重点項目を示す。基準を満たした場合には「○」は2個分。

総合 評価

- 卓越して優秀：○が7個～9個ある
 優秀：○が4個～6個ある
 良好：○が0個～3個ある
 不十分：良好の評価だが、ルール違反がある

エコチル調査ルールの遵守及び管理状況
 ・個人情報の管理状況のルール違反
 ・成果発表ルールの違反（軽微な違反を除く¹⁾）
 のいずれかで注意喚起後も同じルール違反を繰り返した場合、評価が下がる。

評価項目		評価基準（○をつける視点）	判断材料	
質問票 ²⁾ の 回収状況	回収率の状況	<ul style="list-style-type: none"> ■ 回収率がUC³⁾全体の平均以上の場合 ■ 回収率を標準偏差（SD）から評価し、2年継続して回収率が全ユニットセンターの平均プラス0.5SD以上の場合 	○	自己点検結果、 質問票回収状況 (コアセンター資料)
	回収率の維持	<ul style="list-style-type: none"> ■ 直近の回収率の減少が出生後6ヶ月より●%未満⁴⁾ 	○	
	回収率の改善	<ul style="list-style-type: none"> ■ 質問票の回収率が前年度より改善されている 	○	
			○	
業務全般の取組状況 (PDCAの取組)		<ul style="list-style-type: none"> ■ 「参加者（子どもを含む）の調査参加へのモチベーション維持」⁵⁾ 	○	CC ⁶⁾ ・UCによる他薦
		<ul style="list-style-type: none"> ■ 「質問票回収率の維持・向上」 	○	UCによる他薦
		<ul style="list-style-type: none"> ■ 「成果の社会還元」 	○	UCによる他薦
エコチル調査の成果		<ul style="list-style-type: none"> ■ エコチル調査の研究成果や活動に対し学会等から表彰・褒章がある 	○	自己点検結果
		<ul style="list-style-type: none"> ■ 特に優れた学術論文や成果発表がある (論文数や論文の質⁷⁾等を総合的に評価) 	○	UCによる他薦

- 1) エコチル調査の成果を発表する上で重大な問題となることが想定される場合を対象とする。届出・報告の遅延などは軽微な違反と見なし、注意喚起を実施することとし、総合評価における減点の対象とはしない。なお、注意喚起への対応が不十分である場合などはこの限りではない。
- 2) 年齢別質問票と学年別質問票を評価対象とする。
- 3) UC:ユニットセンター 4) エコチル調査全体の回収率の減少率を基準とし、年度により可変。令和7年度年次評価では29.3%未満。
- 5) 13歳以降の継続のための取組を含む（継続率を含む）。 6) 本項目はCC（コアセンター）も優れた取組のUCを選出する。
- 7) インパクトファクターや社会的意義及び、学会等における表彰などを参考にする。